

## Cover

穴が胸にあいたように 昨日の事思い出した  
これでも繰り返す 今日に何が埋めこなさ  
もう一人の自分だけには 見からぬ様に出たおいてよ  
つぎの事も 悲しい気持ちにならざるはずでしょ  
(埋めたいよ)

いつがうかばおれおれに 密りにおれたい 思ひ達が  
螺旋階段昇りも 飛んでおれたいよ  
こりおまていひさ、いひか減た振りも  
朝日が差し込むのは カートをすぐに開ける  
(易いおんじ)

欲しいものは 雲の上で 舞う、てるのは いつものくせ  
手にてきたいものが あるから 生きてける  
明日はこの辺で 忘れたいおれおれに  
一針先の自分に 間に合うように 伝えるよ

## 流星

昨日までの雨の残った水たまり  
覗き込むと写るなく土の光  
その夜になってもこの光残ったら  
両手で包みこんで空に放したい  
いつもキレイな星空が僕に話しているよ  
いつかなくなるならキレイに輝くよ  
あの目角がなかった星のひびく片を  
今ならこの手でも触れられるのかな  
眠れない夜中に埋めつくす頭  
片隅で色褪せる思い出は消えた  
もしもこの夜も色褪せて思い出になるのなら  
今だけは外見で願いをかけよう  
月の光さえ消えてしまうほどの  
流れ星の星屑に心踊らせる  
溢れだしてゆく涙に写るのも  
全て受け止める夜空の星が一瞬  
燃えつきし夢  
耳を澄ましたまま聞かぬ足音一つ  
星の流れる音 3/4拍子 消えた...

なないろのかげら

あゝかみらずの日曜日 朝日が僕を包むのに  
いづれより部屋が広い様な、それがもう僕は自由なんだ  
晴れた空見上げてみたらなぜか自然に軽くスッぽ  
あゝかみらずの日曜日 赤い夕日にサヨウナラ。  
光も音もない場所 自分が身がいたもう僕は独りぼっち  
星が降る空は瞬き なぜか自然に  
冷めた風はやがて強くなるいつかまた  
星をとり乱す様ななないろかがやくかけら  
三日月が消えて行く頃僕の心も何かが溶けた  
太陽が白く光ると僕の心もかがやいた。おはよう。  
冷めた風はやがて暖くなるいつかまた  
青空を戻す様ななないろかがやくかけら  
星から青空へ  
青空から降り注ぐ様ななないろかがやくかけら

## バのままだに

ある朝目が覚めてタバコに火をつけた  
陽が僕らを照らしている  
さっき見た夢の青を考えたがらぼぼんでいる自分がいる  
バのままだに生きるがら白い霧は消えて行く  
スコードをあげてトネル抜けたらまて  
夢の続きが見れるから  
これから僕らの道は進むべになるのは希望と勇気だけ  
昼下がりの金曜日 くだり雲を見た  
「君はどこへ行くのたさう？」  
希望と絶望は紙一重だから常に僕はプラス思考  
バの中に隠れる臆病はもうない  
形あるものだけチロレしてたらまて何も見えなくなるんだよ  
これから待つべき素晴らしい世界には悲しみはもうない  
これ僕らはいつのまにか大人になる  
これで夢は夢として存在した  
胸の奥深いところには絵を描いて長い旅に出るんだよ  
スコードをあげてトネル抜けたらまて  
夢の続きが見れるから  
これから僕らの道は進むべになるのは  
希望と勇気だけ。

## アングレウ

時間通り来な<sup>い</sup>電車見<sup>え</sup>る  
突然雨が降<sup>り</sup>て持ち合<sup>わ</sup>せた傘<sup>さ</sup>な<sup>い</sup>  
窓の外から<sup>グ</sup>レ吹<sup>く</sup>風<sup>一</sup>つ  
ぼ<sup>ー</sup>としてた<sup>ら</sup>ず<sup>ぐ</sup>に朝<sup>の</sup>光<sup>が</sup>さ<sup>す</sup>  
一分た<sup>つ</sup>た<sup>り</sup>して<sup>も</sup>なん<sup>の</sup>事<sup>な</sup>い<sup>け</sup>ど  
降<sup>り</sup>続<sup>く</sup>一<sup>秒</sup>で<sup>大</sup>き<sup>く</sup>な<sup>る</sup>  
い<sup>つ</sup>で<sup>も</sup>何<sup>処</sup>か<sup>で</sup>聞<sup>こ</sup>える<sup>音</sup>が<sup>あ</sup>る  
残<sup>さ</sup>した<sup>僕</sup>を<sup>呼</sup>ん<sup>び</sup>る<sup>声</sup>な<sup>ら</sup>か<sup>な</sup>?  
春<sup>か</sup>すみ<sup>空</sup> 魚<sup>の</sup>手<sup>が</sup>届<sup>く</sup>の<sup>に</sup>  
見<sup>上</sup>げ<sup>る</sup>ば<sup>か</sup>り<sup>い</sup>つ<sup>も</sup>僕<sup>は</sup>見<sup>上</sup>げ<sup>る</sup>た<sup>け</sup>  
す<sup>み</sup>達<sup>ら</sup>の<sup>波</sup>の<sup>う</sup>ね<sup>り</sup>を<sup>中</sup>に<sup>か</sup>き<sup>か</sup>け<sup>て</sup>僕<sup>に</sup>に<sup>き</sup>こ<sup>え</sup>る  
い<sup>つ</sup>も<sup>い</sup>る<sup>場</sup>所<sup>を</sup>誰<sup>か</sup>で<sup>比</sup>べ<sup>て</sup>も  
誰<sup>か</sup>が<sup>決</sup>め<sup>る</sup>ん<sup>じ</sup>や<sup>な</sup>い<sup>自</sup>分<sup>が</sup>決<sup>め</sup>て<sup>く</sup>事  
雲<sup>が</sup>か<sup>か</sup>た<sup>ま</sup>の<sup>雨</sup>や<sup>い</sup>た<sup>午</sup>前<sup>4</sup>時  
迷<sup>っ</sup>て<sup>止</sup>つ<sup>て</sup>も<sup>そ</sup>の<sup>水</sup>が<sup>生</sup>きて<sup>る</sup>事  
い<sup>つ</sup>で<sup>も</sup>何<sup>処</sup>か<sup>で</sup>聞<sup>こ</sup>える<sup>音</sup>が<sup>あ</sup>る  
自<sup>分</sup>で<sup>自</sup>分<sup>を</sup>呼<sup>ん</sup>び<sup>る</sup>声<sup>だ</sup>った  
い<sup>つ</sup>で<sup>も</sup>何<sup>処</sup>か<sup>で</sup>聞<sup>こ</sup>える<sup>音</sup>が<sup>あ</sup>る  
残<sup>さ</sup>した<sup>時</sup>を<sup>刻</sup>ん<sup>び</sup>る<sup>一</sup>秒<sup>だ</sup>った

## 紅いまち

そろそろ日が落ちる頃 ぼんやり空眺めた  
紅いろの景色だけがすめく  
街の光 照らされ 草色になった  
ため息がでてきても 白くなった  
つらい事ばかりがいつかたの事も繰り返し  
いつか消えてなくなるでしょう。  
どこまで行こうかな？

籠の中の昨日までの天気予報 凜りの雨  
願ひ込めて 数える3秒 流れ星が消えるまでに  
僕はこれを一度にすべて覚える事はない。だから  
どこか紙に書いておこう、大事な事忘れないう様に  
籠の中の天気予報 昨日までと繰り返しても  
雨があがる時間だけは少しおっだけ早くなるよ  
そろそろ日が落ちる頃 ぼんやり空眺めた  
紅いろの景色 ぼんやりがすめく  
街の光 照らされ 草色になった